

キューピーグループのサステナビリティ

創始者の中島董一郎が志した「食を通じて社会に貢献する」という想いは、創業から100年を超えた今も従業員の志の礎となっています。例えば、日本の鶏卵生産量の約10%を取り扱うグループとして、1956年から卵の殻の再資源化にこだわり、今では、100%再資源化を実現できています。

私たちの社会はより豊かに、より便利に進化してきた一方、環境の変化にともなって様々な社会課題が表面化するとともに、地球環境にも大きな影響が出てきています。それらの課題に真摯に向き合うことで持続可能な開発目標(SDGs)などの世界共通の目標達成に貢献し、持続可能な社会の実現への貢献とグループの持続的成長の実現をめざします。

サステナビリティの基本的な考え方

グループの理念と規範の実践を通じて、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、グループの持続的な成長の基盤とします



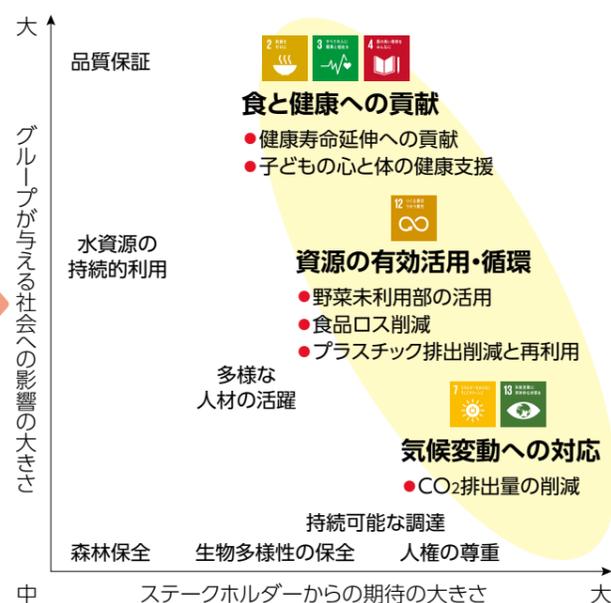
サステナビリティに向けての重点課題

社会変化にともなうリスクと機会を分析し、SDGsを参考にに取り組むべき社会課題を抽出しました。次に、社会課題ごとに、ステークホルダーからの期待の大きさとグループが与える社会への影響の大きさを評価することで、取り組みテーマを特定し、「サステナビリティに向けての重点課題」としました。なお重要性の評価においては、サステナビリティの国際基準GRI、ISO26000、SASBおよび各種ESG評価などを参考に、「キューピーグループ 2030ビジョン」の考えを反映しました。それぞれのテーマについて2030年までに取り組む内容を指標化したものがサステナビリティ目標です。社会の変化に対応し、より多くの従業員がサステナビリティへの意識・視点をもって、広く関わるようにすることが必要と考え、新たな中期経営計画の方針にも入れて目標を見直しました。

社会変化にともなうリスクと機会

分野	社会変化	リスクと機会
社会	<ul style="list-style-type: none"> 超高齢社会 新型コロナウイルス感染症の拡大 核家族や一人親世帯の増加 貧困・格差の拡大 多様な価値観の広がり 	<ul style="list-style-type: none"> 健康志向の高まり 外食機会の減少 食のコミュニケーション不足 食知識や体験への関心の低下 人権意識の高まり
地球環境	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動、パリ協定 自然災害など不測の事態の増加 森林破壊・水資源の枯渇 農産物の質・収量低下 	<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素社会、エシカル消費 海洋プラスチック汚染 循環型社会の実現 食資源の不足、食品ロス削減 地球環境保護意識の高まり

取り組みテーマの特定

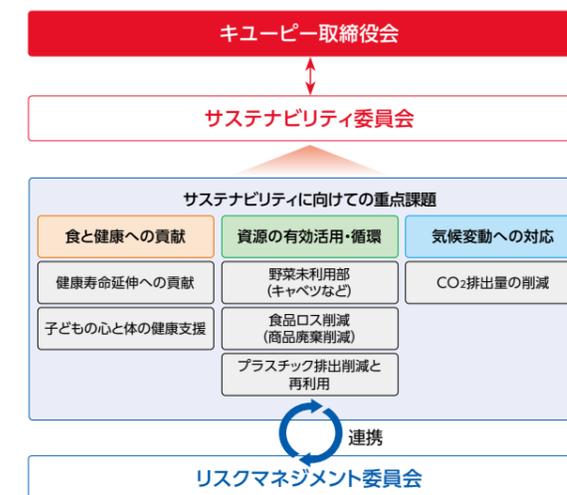


サステナビリティ推進体制

サステナビリティ委員会は、担当取締役を委員長とし、サステナビリティ目標の達成に向けた方針・計画策定および取り組みを推進しています。

重点課題に対する目標・取り組みについて、分科会や連携するプロジェクトで検討し、グループ内への浸透と定着を図っています。

また、リスクマネジメント委員会とも連携して、環境変化に対応し、経営基盤の強化を進めていきます。



サステナビリティ目標

重点課題	取り組みテーマ	指標	2020年度実績	2024年度目標	2030年度目標	SDGsとの関連づけ	
社会	食と健康への貢献	健康寿命延伸への貢献				2 健康を中核に、3 すべての人に健康と福祉を	
	子どもの心と体の健康支援	私たちの活動で創る子どもの笑顔の数(2019年度からの累計)	17.7万人	40万人以上	100万人以上	4 すべての人に健康と福祉を	
地球環境	資源の有効活用・循環	野菜未利用部(キャベツなど)	有効活用度	40.0%	50%以上	90%以上	12 持続可能な消費と生産
		食品ロスの削減(商品廃棄削減)	商品廃棄量削減率(2015年度比)	11.6%	35%以上	50%以上	
	気候変動への対応	プラスチック排出削減と再利用	プラスチック排出量削減率(2018年度比)	-	8%以上	30%以上	
気候変動への対応	CO ₂ 排出量の削減	CO ₂ 排出量削減率(2013年度比)	10.5%	20%以上	35%以上	7 エネルギーを中核に、13 気候変動に具体的な対策を	

※ サステナビリティ目標は国内の数値となっています。